

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 4 区分

【発行日】平成30年7月12日 (2018.7.12)

【公開番号】特開2016-221766(P2016-221766A)

【公開日】平成28年12月28日 (2016.12.28)

【年通号数】公開・登録公報2016-070

【出願番号】特願2015-108835(P2015-108835)

【国際特許分類】

B 4 1 J 11/00 (2006.01)

B 6 5 H 29/58 (2006.01)

G 0 3 G 15/00 (2006.01)

【F I】

B 4 1 J 11/00 A

B 6 5 H 29/58 A

B 6 5 H 29/58 B

G 0 3 G 15/00 5 1 8

【手続補正書】

【提出日】平成30年5月28日 (2018.5.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 3】

定着ローラギア 5 1 4 には、ギア 8 0 4 が噛合しており、ギア 8 0 4 が回転することで、ギア 8 0 4 と同軸上には、ギア 8 0 5 が設けられている。ギア 8 0 5 には、ギア 8 0 6 が噛合しており、ギア 8 0 6 には、第 1 の遊星ギア機構 8 0 7 と第 2 の遊星ギア機構 8 0 8 とが噛合している。第 1 の遊星ギア機構 8 0 7 の後述する遊星キャリア 8 0 7 b は、ギア 8 0 9 に噛合しており、ギア 8 0 9 の駆動力は、ギア 8 1 0 を介して、反転ローラギア 5 3 3 に伝達される。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 9】

また、図 4 に示すように、レバー 5 5 3 は、ストッパ 8 1 4 の被挟持部 8 1 4 d を挟持する挟持部 5 5 3 d を有しており、ソレノイド 5 5 1 が ON してレバー 5 5 3 が回転することで、バネ 8 1 6 の付勢力に抗してストッパ 8 1 4 を回動させる。これにより、第 1 の係合部 8 1 4 a が、太陽ギア 8 0 7 a から離間し、かつ第 2 の係合部 8 1 4 b が、太陽ギア 8 0 8 a に係合し、案内部材 5 4 が反転位置に位置する。すなわち、ストッパ 8 1 4 は、太陽ギア 8 0 7 a 及び太陽ギア 8 0 8 a を選択的に停止させる。なお、本実施の形態において、アクチュエータユニット 5 5 と、ストッパ 8 1 4 と、によって停止手段 8 0 0 が構成されており、切換え機構 8 3 は、第 1 の遊星ギア機構 8 0 7 と、第 2 の遊星ギア機構 8 0 8 と、停止手段 8 0 0 と、を有している。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 4 8 】

また、第 1 の遊星ギア機構 8 0 7 及び第 2 の遊星ギア機構 8 0 8 は、同一構成からなり、部品を共通化でき、コストダウンすることができる。また、遊星ギア機構を使用することで、平歯車を径方向に配列したギア列に比して、小型化することができる。また、2 つの遊星ギア機構を用いても、常に同じ回転要素である遊星キャリア 8 0 7 b から駆動力を出力するので、安定的な回転を反転ローラ 5 3 1 に伝達することができる。